

▶第37回目となる今回は、サンテクノカレッジ コンピュータコミュニケーション科 3年 清水一樹さんが、株式会社ジインズ 代表取締役 廣瀬光男氏 を取材しました。



学生

サンテクノカレッジ
コンピュータコミュニケーション科
3年 清水 一樹 さん

“積極的に 『挑戦』していくこと”

経営者

株式会社 ジインズ
代表取締役
廣瀬 光男 氏



▶ **学生** 会社概要と事業内容をお聞かせください。

▶ **経営者**

弊社は、創立から18年が経過しました。私は会社創立する前は山梨県庁に勤めていましたが、その頃は産業空洞化が叫ばれ始めていました。「これからの地域の未来に知識産業が必要ではないか」という理念を抱き、平成8年に起業し単身スタートさせたのがジインズです。

当初はゼロからの出発で全てが未知なる世界でしたが、ネットワークに着目し、地方自治体の情報ネットワークの設計や構築から事業を立ち上げ、山梨県の中に高速情報通信時代を切り拓いてきました。振り返りますと、インターネットをはじめ地域の高速情報通信やオープンソースソフトの普及に貢献してきたと自負しています。

現在は、自社製の認証管理・統合ソフトのADMS(アダムス)の制作販売を全国に展開し、「成長とは何か、良い会社とは何か」といったことを考えながら、自分達で未来を描き個性ある会社づくりに挑戦していきたいと活動しています。

▶ **学生** 今の学生に伝えたいことは何でしょうか。

▶ **経営者**

世の中はチャンスに満ち溢れているということを知り、自分自身で努力をすることが大切であるということです。目の前にあるテーマや課題に全力でぶつかっていく集中力や熱意も大事です。

山梨では今後人口減少が確実に進み、地域の経済社会も

不安な要素が目立ってきています。しかし、少しも心配する必要はないと思います。自分達の力や未来を信じて努力していく限り、必ず明るい道は拓けます。自分達が拓いていくのだと思えば、こんな面白い時代はないと思います。

また、人は困難な問題や失敗を通してはじめて大きく成長していくものだと思います。問題克服には、課題から逃げずに誠実に向き合い、解決に向け努力する以外に方策はありません。特にソフト会社は業務の性格上、個人で解決できる問題より、チームや全社で協力してはじめて克服できる問題が少なくありません。新人のうちは力も無いのは当たり前ですが、努力する姿勢は年齢ではなく、人として問われるものです。

自身はどうすれば良いか、自問自答しながら自身で考え最善を尽くしていくことを大事にするとういと思います。

▶ **学生** 求める人材についてお聞かせください。

▶ **経営者**

時代も企業も積極的な人を求めており、挑戦していく、

取材を終えて…

自分の通っている専門学校の設立に大きく関わった方にインタビューをするという、大変貴重な経験をさせていただきました。

たくさんの資格試験に挑戦してきましたが、知識ではなく学習していくことが大事だと気付かされました。これからは結果だけでなく、過程の部分もしっかり見つめていこうと思います。

取材を通して、これから就職するであろうIT業界について、学生としてやるべきことだけでなく礼儀作法まで様々な課題が見えてきました。

ゼロからでも取り組むといった情熱をもつ人を期待しています。言われたことしかやらない人には継続は難しいでしょう。知識は勉強すれば何とかありますが、求められるのはあと一歩踏み込む「意志」、学習していく「精神」だと思います。

▶ **学生** IT業界の現状・動向についてお聞かせください。

▶ **経営者**

今後、社会は更に複雑になり情報処理は高度化し、情報技術の需要は高まります。技術はすぐに陳腐化しますので、必ず新しいニーズが生まれ技術革新は止まることはありません。

新聞では大企業の決算は好調のようで需要は膨んでいます。情報産業では派遣や受託や請負が中心で業種・業態によって好調さが違うようですが、全体は伸びていくのではないのでしょうか。

